



笑顔と健康・進化する元気なまちづくり

鏡石町長 遠藤 栄作

あけましておめでとうございます。謹んで新年のごあいさつを申し上げます。
さて、鏡石町では、令和4年度から今後10年間のまちづくりの指針となる「鏡石町第6次総合計画」を策定いたしました。計画では、町の将来像として「未来へつなぐ ずっと安心 みんな元気に『進』かがみいし」を掲げ、いつでも・いつまでも安心して暮らすことができ、次世代につながる、さらなる町の飛躍・発展を目指していきます。

また、鏡石町は今年8月に町制施行60周年を迎えます。今年は駅東地区に新たに整備する「健康福祉センター」の着工をはじめ、全国田んぼアートサミットの開催、老朽化した旭町浄水場に替わる新浄水場の完成など、節目の年にふさわしい大きな進化を遂げる一年となることが期待されます。

そして、国の「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」については昨年、矢吹町、玉川村の首長とともに、遊水地群整備事業に関して県の理解や支援を求める要望書を県知事に提出しました。町としては今後、国の動向を注視し、遊水地整備計画の対象となる成田地区の居住地移転、営農対策、コミュニティの維持といった課題に対し、地域の皆様に寄り添いながらきめ細やかな対応を行っていきたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症は未だ世界中で猛威を振るい、新たな変異株が確認されるなど予断を許さない状況ですが、町ではこれまで以上に新たな生活様式における感染症予防と地域経済への支援を図るため、各種施策に取り組んで参ります。

人口減少・少子高齢化が全国的に加速する中、鏡石町は豊かな自然環境とコンパクトな町であることを強みとし、子育て支援、健康で暮らせる環境づくりに力を入れ、今後も町民の皆様から愛される魅力あるまちづくりに努めて参ります。

結びに、皆様が健康で希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



コロナ禍からの「サステイナブル・リカバリー」

鏡石町議会議長 古川 文雄

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆様には、ご健勝にて新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、常日頃から議会活動には、多大なるご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、未だ収束の見えない新型コロナウイルス感染症ですが、令和4年は、コロナ禍で疲弊した経済、社会、人々の意識を回復させながら、未来に向けた復興を目指す一年になるのではないのでしょうか。その復興のためには、新しい日常を定着させながら、「環境への配慮・対策」と「社会・経済活動」を両立させることが課題となります。今、私達には、社会生活のあらゆる場面で、地球上の誰一人として取り残さない持続可能な開発目標『SDGs』の実現が求められています。気持ちも新たに新年を迎えるこの区切りの時に、私達一人一人ができる、コロナ禍からのサステイナブル・リカバリー（持続可能な回復）について考えてみてはいかがでしょうか。

今年、鏡石町は、町制施行60周年の節目の年を迎え、新たな10年間のまちづくりの指針となる「鏡石町第6次総合計画」もスタートいたします。健康福祉センターの建設、第二小学校の部分改修工事、新浄水場の完成、全国田んぼアートサミットの開催、そして、成田地区遊水地整備への対策など、主要事業は多岐にわたりますが、各種施策が将来の町の発展に寄与することを期待しております。

また、議会におきましても、開かれた議会を目指して、これまで以上に議会活動の活性化に努めるとともに、皆様方の声を町執行へ届けることで、未来につながる持続可能なまちづくりを進めていけるように取り組んで参ります。

結びに、年頭にあたり、町民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年もより一層のご支援をお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。